令和５年度　徳島県立博物館協議会・徳島県立鳥居龍蔵記念博物館協議会

【日時】
令和５年９月２２日（金）午後１時３０分から午後３時３０分まで

【場所】
徳島県立博物館　講座室

【出席委員】（５０音順、敬称略）
阿倍 久恵（フリーアナウンサー、佐古絆文化協会事務局）〈副会長〉
生駒 佳也（徳島県立阿南光高等学校教諭）
徳原 香（株式会社あわわ めぐる、事業部編集長）
西 記代子（四国大学文学部講師）
福井 春菜（徳島県立佐那河内いきものふれあいの里ネイチャーセンター自然観察指導員）
町田 哲（鳴門教育大学大学院学校教育研究科教授）〈会長〉
宮岡 真央子（福岡大学人文学部教授）
森脇 佳代子（阿南市立羽ノ浦小学校 PTA）
森脇 崇文（徳島市立徳島城博物館主査・学芸員）

※欠席１名

１　開会
２　館長挨拶
３　委員紹介
４　議事
（１）令和４年度事業実施状況について（博物館）
（２）令和５年度予算及び事業概要について（博物館）
（３）中期活動目標について（博物館）
（４）令和４年度事業実施状況について（鳥居龍蔵記念博物館）
（５）令和５年度予算及び事業概要について（鳥居龍蔵記念博物館）

（１）令和４年度事業実施状況について（博物館）
（２）令和５年度予算及び事業概要について（博物館）　質疑応答

委　員　令和５年度企画展「かがやく生きもの－光をまとった生きものの不思議な世界－」を観覧した。観覧者が自身で操作しながらブラックライトと LED ライトを切

り替えて資料に照射し、それぞれを照射した際の資料の反射の違いを確認することができ、大変興味深かった。また、展示されているものの中には、博物館にしかないような貴重な資料はもちろんのこと、自宅にあるような食料品等も展示されており、それらにブラックライトを照射して観察するのが面白かった。
視覚障がいを持つ方と一緒に展示を観覧に行く機会があり、どのように展示を伝えるか難しいことがある。視覚以外の感覚を使って体験できるようなユニバーサルな展示を展開していくのがよいと感じた。

事務局　自身で操作して観察するような展示については、アンケートにおいても、好評を得たことが確認できた。今後も、観覧者自身が体験・経験できるような展示を取り入れつつ進めていきたい。

委　員　『徳島県立博物館年報』第 32 号（令和４年度）に掲載されている「観覧者等統計」の中の高校生の観覧者数が少ない。学校教育だけでは得られない多様な価値観を得られる場として博物館は重要である。潜在的には徳島県立博物館の展示等に興味を持つ高校生は多いと考えられる。徳島県立博物館から県内の高校生にどのように情報を発信し、興味を持ってもらうかを検討していく必要があるだろう。

委　員　現在の流行を取り入れつつ情報発信することも考えていく必要があるのではないか。流行のテレビ番組等からもヒントやアイデアが得られると思う。

事務局　ポスターやチラシのみでは、情報が十分に届いていないように感じている。高校生や大学生等の若い世代に向けて情報を発信するという狙いもあり、SNS の活用を強化している。従来から利用している Facebook に加えて、Instagram や X のアカウントも開設し、運用を始めた。しかし、現状では想定したような効果は得られているとは言えない。対象の年齢層やメディアに応じた情報発信方法について、引き続き検討しなければならないと感じている。

委　員　東京の商業施設等では、ピクトグラムでの案内が浸透している。徳島県立博物館でもピクトグラムを用いてユニバーサル化をより進めていくことが望ましい。また、商業施設では男性が子どものおむつを替えられるように配慮されているところがあるが、徳島県立博物館においても、男性用トイレにおむつ替えのための設備があるのでよいことだと思う。
さらに、近年、博物館展示でもデジタル化が進んでいる。徳島県立博物館の常設展示室での「三好長慶のデジタル塗り絵」等、デジタル画像を作成し、お土産と

して持って帰ることができる仕組みは続けてもらいたい。
AI（人工知能）の活用が各分野で進んでいるが、解説等では学芸員と来館者のコミュニケーションも重要だと感じる。安易に全てをデジタルに移行していくのではなく、対人でのコミュニケーションも重視しつつ博物館活動を展開してもらいたい。

委　員　インバウンドの誘致にはピクトグラム等を取り入れたユニバーサル化が必要であるが、同時に多様な宗教的習慣にも配慮が必要ではないか。例えば、イスラム教では礼拝の習慣があり、礼拝ができる部屋の準備が必要である。

委　員　文化の森総合公園内にあるカフェでの食事についても、多様な価値観への対応が必要ではないか。

事務局　ピクトグラムや文化の森総合公園内のカフェでのメニュー、多様な宗教的習慣への対応については、徳島県立博物館のみではなく、文化の森総合公園全体で検討し、統一しなければ十分な効果が得られないだろう。文化の森総合公園内の各館で今回の情報を共有し、検討していく。

委　員　子どもを連れて遊びに行く際には、保護者は周囲に気を遣うことが多く、連れていく場所が限られる。そのような中で、常設展示室前のキッズスペースを使い、子どもを対象にした取り組みを始めていただいたことはありがたい。また、子供と常設展示室を観覧した際に、受付案内員に丁寧に体験できる展示の説明を受けた。子どもも喜んでいて、声がけをしてもらうことはよいと感じた。

委　員　SNS での情報発信は難しい。内容はもちろん重要だが、更新頻度を高くすることも重要である。SNS を担当するような職員がいればより効果的な SNS での情報発信が可能になるだろう。
玄関に各館の企画展等の看板を設置しているが、それぞればらばらにデザインされている。それらのデザインを統一するのもよいのではないか。

委　員　県内の高校の多くが導入している ICT を活用した教育支援プログラムである Classi に徳島県立博物館のポスターやチラシを掲載できないか。そうすることで、高校生の目に触れる機会が増え、徳島県立博物館に興味を持ってもらえるのではないか。

事務局　徳島県立博物館の情報が高校生や大学生に届きさえすれば、博物館活動に興味を

持ってもらえる可能性があると感じている。SNS のみではなく、Classi を活用してタブレット等に情報を配信できれば、よいツールとなるだろう。しかし、文化の森全館が知事部局に移管されたことで、県教育委員会のネットワークシステムにアクセスできなくなっているため、すぐに対応できるか難しい部分もある。博学連携や情報発信については、引き続き皆様からもお知恵をいただきながら効果的な方法を探っていきたい。

（３）中期活動目標について（博物館）　質疑応答

委　員　提示いただいた「第５期中期活動目標（案)」はよく考えられたものだと感じる。これからの５年間について、提示いただいた案の方向性で進めていただければと思う。一方、「予算の減少」や「施設の老朽化」という問題が同活動目標（案）の中で挙げられており、目標の達成のためには、これらの課題を解決する必要がある。
研究プロジェクトの中で科学研究費補助事業の占める割合が少ないことが気にかかる。他の研究機関との連携等も含め、活発に研究ができるよう進めてもらいたい。
徳島県立博物館の PR ポスターが第 60 回 JAA 広告賞コンクールの「屋外・交通広告部門メダリスト」を受賞したことを受けて、単にポスターのデザインがよいというだけではなく、学芸員が推薦する資料がデザインの核になっており、学芸員の想いのようなものが感じられたことがよかったと思う。今後、徳島県立博物館が地域の交流拠点として機能していく上で、資料のみでなく、学芸員自身が果たす役割が大きくなると考えている。

委　員　事業別の「中期活動目標（案)」の中で、それぞれの事業が「知」、「探」、「伝」、「連」と一文字でまとめられているが、マネージメントに関連するもののみ一文字で示されていないので、ここについても「営」とすればよいのではないか。

事務局　「中期活動目標（案)」を作成する中で、そういった検討も行ったが、「知」、「探」、「伝」、「連」で挙げている事業と性質や階層が異なるため、今回示した案として整理した。

委　員　学芸員は様々な業務を抱えており、その中で新たに SNS についても更新していくのは困難なのではないか。今後、地域の大学生インターンシップやボランティア等として、広報に参画してもらう仕組みを作ってもよいのではないか。

事務局　SNS の運用については、様々な可能性を考慮しつつ模索している。その中で、今回いただいたご意見も検討していきたい。

委　員　来館者や研究者は、徳島県立博物館に収蔵されている資料にどのようなものがあるのかわからないのではないか。新たに収蔵した資料を紹介する展示を企画してもよいと思う。

事務局　当館の収蔵品展は不定期ではあるが実施している。また、常設展示室の各コレクションセクションの中でも実施するようにしている。しかし、かなりの期間、展示していないような資料もあり、今後も試行錯誤しながら公開する機会を重ねていきたい。

（４）令和４年度事業実施状況について（鳥居龍蔵記念博物館）
（５）令和５年度予算及び事業概要について（鳥居龍蔵記念博物館）　質疑応答

委　員　職員の方々は精力的に活動していると感じる。台湾との協同等、良い循環が出来上がっている。このまま進めてもらいたい。

委　員　令和５年３月に開催された国際シンポジウム「鳥居龍蔵と台湾」では台湾と日本の参加者が活発に議論しており、盛況な様子であった。今後も台湾と交流しつつ調査研究が活性化されるとよい。

委　員　かつて「徳島歴史文化フォーラム」に参加した子どもたちの一部は、同フォーラムへの参加がきっかけとなり、その後大学院等に進学している。このような取り組みは効果的と感じる一方で、人類学や考古学が中心であるため、高校での科目に収まりきらず、興味をもつ教員が少ない。「全国高校生歴史文化フォーラム」と比べると、「徳島歴史文化フォーラム」への高校生のエントリーが少ないことや鳥居龍蔵についての研究が少ないことも課題であると感じる。どのように情報を発信し、高校生等を取り込んでいくかが重要だと考えているが、どうやって進めるか難しい。
徳島県立博物館でシンポジウムを開催した際よりも、那賀町木頭のような徳島市から離れた場所で開催したシンポジウムで参加者数が多くなっている。人口が多い徳島市内での開催よりも、遠隔地であっても、鳥居ゆかりの地での開催のほうが参加者数が多い場合がある。今後、このような状況を踏まえてどのようにシンポジウム等を開催していくのか検討しなければならない。

委　員　鳥居龍蔵記念博物館には興味深い資料が多く展示されている。これらをSNSで発信できれば多くの人に興味を持ってもらえるのではないかと感じる。以前、受付案内員に資料の写真を撮影してもよいか聞いたところ、SNSにアップロードしないのであれば撮影してもよいとの返答をいただいた。なぜ資料の写真をSNSにアップロードできないのか。

事務局　展示しているものは館蔵資料だけではなく、借用資料もある。借用している資料については、当館の一存で撮影やSNSでの利用を許可することができない。直接職員にお声がけいただき、相談してもらえればと思う。資料等について、広く発信してもらうこと自体は望ましいと考えている。

委　員　これまでの議論で、高校生やSNSでの広報についての話題が多かった。これらを組み合わせ、高校生にSNSで鳥居龍蔵記念博物館や徳島県立博物館の広報をしてもらうのもよいのではないか。広報を担う高校生にとってもよい勉強の機会になる。

委　員　鳥居龍蔵記念博物館が公開しているデジタルアーカイブの効果は極めて大きい。資料のデータベースの充実についても同様に進めていってもらいたい。

事務局　台湾では鳥居龍蔵について広く知られている。鳥居龍蔵と同じような境遇にあった牧野富太郎の高知県内あるいは国内での認知度は非常に高い。鳥居龍蔵についても、より一層興味関心を持ってもらえるように取り組んでいきたい。SNS等を活用した若年層への情報発信、学校教育との連携について模索していく。
デジタルアーカイブの公開が契機となり、台湾との連携に発展した。今後も台湾との連携やデジタルアーカイブの整備を続けていく。資料のデータベースに関しては、現状、更新が止まっている。しかし、更新の準備は進めており、近いうちに情報量を増やす予定である。
昨年、今年と続けて学芸員を採用することができ、専任２人体制となった。これらの職員を中心に、今後、様々な活動を進めていく。常設展示室の全面リニューアルや新たな事業展開についても探っていくべき時期だと考えている。

長時間にわたり、博物館及び鳥居龍蔵記念博物館の運営について貴重なご意見をいただいたこと、感謝申し上げる。引き続き、皆様のご支援・ご指導をお願いする次第である。